



松ぼっくり

能代第一中学校研修部報

第 6 号
R3. 5. 6発行

R03 研究主題「自ら学び自ら考えて表現する生徒の育成」

1 授業研究会・事前検討会の持ち方について

第 1 回授業研究会 理科 授業者： 先生

※期日は未定 6 月下旬～7 月上旬

今年度は次の 2 つの班に分けて事前検討を行っていきます。授業者の先生は①のチームを主戦場とし、適宜②のチームに入ったり、検討会後に②の先生方から検討内容や活用方法のアイデアを受け取ったりしてください。

①②どちらのチームの検討会でも切り口が異なるだけで、授業の本質に迫れば、話合いの内容は重複してくるのは当然と言えます。事前検討会のもち方は、今回やってみてのご意見を受けて随時変更していきたいと思います。基本的には年 4 回の校内研ですべての先生方が①②の両方の検討チームに所属するようにと考えています。

①秋田の探究型授業検討チーム

従来通り、ねらいと評価の整合や、学習形態を含めた授業全体の流れについて検討する。課題設定からまとめ、振り返りまで、生徒が主体的・対話的に活動し、全体で学びを深める授業になり得るための検討をお願いします。その際、I C T 活用についての検討が話題に上るのも必然なので、無理に避けての検討はしない。

[本間 渡部 檜森 高橋 袴田 相沢 佐藤整]

② I C T 活用検討チーム

指導案を基にどのようにタブレット等の I C T 機器を活用できるかを検討し具体的な提案をする。
また、授業者の I C T 活用の構想が、ねらい達成のために有効かどうかを検証する。
研修会場へタブレット端末を持参し、直接に I C T 機器を活用しながら検討を行う。

[佐々木 田中 保坂 松尾 鎌田 菊谷 大山 相原]

2 「受容と共感」の状況把握と支援

今年度の重点として、「受容と共感」をフロンティア集会でも確認しました。状況を常に把握しながら進めて行く必要があります。授業中の生徒の「反応や表情、学級・学年全体の雰囲気」はどうでしょうか。気になる点については声に出していきましょう。学年部会や朝の打合せで話題にしてください。

その時々で学級差、学年差はどうしても生じるものです。経験上、担任は自分の学級経営を、教科担任は自分の授業力を一人で責めてしまいがちですが、誰が悪い、何が悪いという原因を追及するのではなく、どうすれば今より向上するかをより多くの職員が関わって前向きに取り組んでいくことが大切です。学級内の人間関係や生徒個々が抱える問題、教師の表情や話し方、生徒との関わり、導入の工夫、発問、教材の吟味、学習形態等、複数の目で多面的に捉えて即時的に改善の方向性を探っていききたいと思います。チームとして何の手も打たずに、1 学期の反省を 2 学期に生かすことはできません。